

Mahā Vairocana

特集

NEW TYPE Religious Awakening File#004

—発心したニュータイプ僧侶—

1回生 松本 鮎さん

ROAD_RUNNER File#005

発菩提心

弘法大師の足跡を訪ねよう

マハー・ヴァイローチャナ
大日如来(摩訶毘盧遮那如来)

学
報
2015 Jan
Vol. 71

Mahā Vairocana

大日如来(摩訶毘盧遮那如来)
マハー・ヴァイローチャナ

高野山大学 学報 Vol.71

2015年1月1日(1月・7月年2回)発行
発行人 和田 友伸 編集/企画課

発行所/高野山大学 〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385
TEL 0736-56-5445 FAX 0736-56-2746

印刷所/コシダ印刷株式会社

御厨人窟

KOYASAN UNIV.

高野山大学

<http://www.koyasan-u.ac.jp>

平成27年度 入学試験日程

1、学部<入試日程>

試験種別	願書受付期間	試験日	合格発表	試験場
一般入学試験(前期)	平成27年1月6日(火)～1月28日(水) 消印有効	2月6日(金)	2月13日(金)	本学・東京・大阪
一般入学試験(後期)	平成27年2月23日(月)～3月11日(水) 消印有効 窓口受付は3月17日(火)午後4時まで	3月18日(水)	3月19日(木)	本学のみ
編入学試験(後期) 社会人編入学試験(後期)	平成27年2月23日(月)～3月11日(水) 消印有効 窓口受付は3月17日(火)午後4時まで	3月18日(水)	3月19日(木)	本学のみ
別科入試(第二次) 密教専修コース	平成27年2月23日(月)～3月11日(水) 消印有効 窓口受付は3月17日(火)午後4時まで	3月18日(水)	3月19日(木)	本学のみ
別科入試(第二次) スピリチュアルケアコース	平成27年2月9日(月)～2月20日(金)消印有効	3月1日(日)	3月4日(水)	大阪

※大阪会場…大阪大学中之島センター(高野山大学 大阪サテライトキャンパス) 東京会場…アルカディア市ヶ谷・私学会館(千代田区九段北4-2-25)

<入試科目/募集人員>

- 一般入学試験(前期) 国語総合または英語I・II(50分100点)、小論文(50分100点)……10名
- 一般入学試験(後期) 国語総合または英語I・II(50分100点)、小論文(50分100点)……若干名
- 編入学試験(後期) 小論文(50分100点)、面接……若干名
- 社会人編入学試験(後期) 小論文(50分100点)、面接……若干名
- 別科入学試験(第二次) 試験票、面接……30名(第一次・第二次合わせて)

2、大学院<入試日程>

試験種別	願書受付期間	試験日	合格発表	試験場
修士課程入学試験(後期) 博士前期課程コース 社会人コース 僧侶コース 博士課程入学試験(後期) 博士後期課程	平成27年2月9日(月)～2月20日(金) 消印有効	2月28日(土)	3月4日(水)	本学のみ

<入試科目/募集人員>

- 修士課程 博士前期課程コース 入学試験(後期)
密教学専攻(密教学、英語、面接)……13名(前・後期合わせて)
仏教学専攻(仏教学、英語、面接)……8名(前・後期合わせて)
- 修士課程 社会人コース 入学試験(後期)
密教学専攻(密教学、面接)……若干名
仏教学専攻(仏教学、面接)……若干名
- 修士課程 僧侶コース 入学試験(後期)
密教学専攻(密教学、面接)……若干名
仏教学専攻(仏教学、面接)……若干名
- 博士後期課程 入学試験(後期)
密教学専攻(英語、専門科目、面接)……3名(前・後期合わせて)
仏教学専攻(英語、専門科目、面接)……3名(前・後期合わせて)

3、大学院(修士課程密教学専攻 通信教育課程)<入試日程>

試験種別	願書受付期間	一次選考合格発表日 (書類選考)	二次選考日 (面接)	二次選考合格発表日
修士課程入学試験(後期) 正科生	平成27年1月6日(火)～1月26日(月) 消印有効	2月9日(月)	2月21日(土)	2月25日(水)
修士課程入学試験 科目等履修生	平成27年1月26日(月)～2月27日(金) 消印有効	選考結果通知日	3月9日(月)まで(随時)本人へ通知	

- <入試科目/募集人員> ○修士課程 正科生 入学試験(後期)
(書類選考・面接)……20名(前・後期合わせて)
- 修士課程 科目等履修生 入学試験
(書類選考)……100名

●お問合せ URL <http://www.koyasan-u.ac.jp> E-mail nyushi@koyasan-u.ac.jp

2015年4月 文学部「人間学科」誕生!!

お大師様のお言葉

密教学科教授 下西 忠

「命^{めい}の速^{すみ}やかなること

飛^とぶ箭^やの如^{ごと}し

身^{しん}の空^{くう}なること

朝^{あした}の露^{つゆ}の如^{ごと}し

(『統遍昭発揮性靈集補闕抄』巻十「九想詩」より)

詩句の意味は、人生ははかない。人の命のはかなさは前から矢のように迫つて来るのだろう。仮の身も空であり、朝露のようににはかないとなる。漢書をひくまでもなく「人生、朝露のごとし」とは古来からよく書物に登場する。「朝^{あした}の紅顔^{ゆうべ}も夕には白骨となる」は、平安時代の藤原義孝の詩文。彼は痘瘡(とうそう)のため21歳で生涯を閉じた。遺児は三蹟の一人藤原行成である。

はかない世の中に人はどのように生きるか、はかなさを嘆いてもはじまらない。自覚的に無常をとらえ、その二瞬二瞬を大切にいきることが大切ではないかと思うのです。



Contents

1

NEW TYPE Religious Awakening
File#004

特集―発心したニュータイプ僧侶― 松本 鮎



3

ROAD_RUNNER File#005
道を歩む僧侶たち

荒井 宗徳



4

ナイトレクチャーに参加して
学園祭
オープンキャンパス



5

弘法大師の足跡を訪ねよう(第2回)



7

東日本大震災復興支援活動から学ぶ
連続講座
講師派遣制度をご利用ください
寄付金のお願い



8

高野山大学別科
スピリチュアルケアコース
公開講座を開催しました!!



9

高野山大学フジキン小川修平
記念講座講演会を開催しました!!
武内孝善教授・藤田光寛教授 最終講義



10

大学通信
日録(7月〜12月)



11

旧制高野山大学設立
(図書館)時代
高野山大学史#004

木下 浩良



12

同窓会だより 第46号



17

平成27年度 入学試験日程



今、お坊さんが来てる。高野山へ

I will become a NISO Q&A NEW TYPE Religious Awakening File#004

Q1 高野山大学への進学動機を教えてください。

私は高野山高校の宗教科に在籍していたので、学校で仏教のことを学びながらお寺でお手伝いをする生活を送っていました。そうして仏教やお坊さんの良さに触れているうちに、高校二年生になるころには僧侶になりたいと思うようになり、高校三年生になった頃、大学に進学すべきか否かで迷っていたのですが、宗教科の主任でありクラスの担任でもある先生に相談したところ、「この先ちゃんと力をつけて一人立ちしたいと思うようであれば大学は必ず出ておいた方がいい」というアドバイスもあり、密教をもっと深く学べる環境がある高野山大学への進学を決意しました。

Q2 入学前と入学後の印象の変化、驚いたことは？

入学して驚いたことは同期生、先輩ともに人柄がフレンドリーで優しい方が多いことです。まだ右も左も分らない入学当初でも先輩方が色々教えてくださったお陰で学校生活の不安は少なく、今も楽しい大学生活を送らせていただいています。それともう一つ、予想よりお坊さん率が高くなく、純粹に密教や仏教を学びに来られている方が多かったところでしょうか。

Q3 入学後新たに興味持ったこと、知識を深めたいと思ったことは？

仏画の授業があることを知り、仏画を描くことに興味を持っています。昔から絵を描くことや表現していくことが好きなので、その「好き」を仏教と結び付けてもっと深めていきたいなと思います。しかし一回生で取れる授業数は限られているため、これからまだまだ新しい発見が沢山あると思うと楽しみです。

大学の友達と
仏教ネタが飛び交います



蘭参(報恩日)
奥之院にて



情報処理自習室にて
お昼ご飯のおにぎり
とツーショット

Q4 今最も興味をもった授業、興味をもった理由は？
A4 漢字Iと日本文学の授業です。漢字Iは中国で修業された先生が従来の日本の書道の教え方ではなく、筆の持ち方から古代にかえって教えて下さるので非常に興味深々になります。日本文学は有名な古文を面白く解りやすく内容を教えて下さるのが魅力的で、引き続き学んでいきたいです。

Q5 高野山大学で学ぶ面白さ、魅力はどんなところ？
A5 少数人制であるため学生一人一人と先生の距離が近く、親しく学べるところだと思います。また、高野山という特殊な環境の中にある大学なので、宗祖であるお大師様の誕生日をお祝いする青葉祭、お山の住民とともに学生が丸となって全力を尽くして参加したり、月に一度のお大師様のもとへお参りに行く学校行事など、仏教が身近に溢れている本学環境そのものが魅力的だと思います。

Q6 ボランティア、クラブ活動、課外活動、その経験から学んだこと、興味があったことは？

A6 高校生のころ、師僧のお寺で住み込みながらお手伝いをして学校に通っていたこともあり、師僧のお寺によくお手伝いに行かせて頂いています。その中で人間関係の大切さや礼儀、料理や掃除の仕方など基本的なことから、仏様のこと、僧侶として生きていく上で必要なスキルなど様々なことを学ばせて頂いています。また、課外活動で高校から宗教舞踊を習っています。今までは踊ることが楽しくて習っていましたが、来年度の開創1200年大法会に向けて、大阪で行われた大会を終えた今は、一曲一曲ごとに真剣に、心を込めて踊ることの大切さを知り、もっと上達したいと思うようになりました。それに先生や先輩方の人間性が素晴らしく、尊敬しているのでその精神的な部分も見習いたいです。



強く、正しく、元気よく！

松本 鮎(僧名:禮仙)
1995年10月30日生まれ 1回生
＜出身＞大阪府
＜出身高校＞高野山高等学校
(和歌山県)

Q7 高野山で生活して学ぶこと、得ることについて
中学校を卒業して高野山に来たので今年で四年目となったのですが、その四年間で一番学んだことは、感謝をする心と信じる心の大切さ、そして思いやりです。人と人は思いやりという目に見えないもので繋がっているのだということ、高野山に来て深く感じています。

Q8 高野山大学で学んだことを将来どう活かしたい？
A8 大学で学んだことを土台として、自分が僧侶になった時に、一般の人々に仏教を伝え、それと同時に人々の苦しみを少しでも取り除いていきたいです。

来年度の高野山開創1200年記念大法会に向けての
大阪で行われた舞踊の大会



Q9 卒業後の目標や将来の夢について

A9 尊敬している尼僧さんがいるので、少しずつでもその方の人間性に近づけるよう精進していきたいのと、将来は僧侶という人々を導く存在として、人の心の苦しみを取り除く活動をしていきたいと思っています。

Q10 高野山大学を目指す受験生にメッセージを

A10 まだ高野山に来たことのない方、高野山に流れる雰囲気を知らない方は、今までの生活との違いに不安を覚えるかもしれませんが、臆することなくこちら側の世界に飛び込んで下さい！高野山の魅力を一緒に味わいましょう。



「遍照尊」
高校生のころから始めた
宗教舞踊



お手伝いに行かせて頂いている
師僧のお寺にて



朝、仏様に
ご飯を差し上げます

ナイトレクチャーに参加して

安川 てる子

私は、2005年から高野山異文化交流ネットワークの一員として外国の方々に高野山の案内をしてきました。また2009年から金剛峯寺境内地案内人としても活動しています。6月にナイトレクチャーが高野山大学で開催されていることを知り、主人と相談して参加し始めました。最初は橋本から夜間、車での往復を憂慮していましたが、回を追う毎に、次の講義が楽しみになってきて今では待ち遠しいようになりました。

多くの先生方が、奥深い研究の一端を色々な角度から、また違った視点から教えてくださり今まで知らなかった世界を見る事ができるようになりました。特に武内先生は毎回膨大な資料

を準備してくださり本当に感謝しています。密教についての講義も興味深いものが多く全部挙げる事は困難ですが、佐藤隆彦先生の「五銚金剛杵について」、井上ウィマラ先生の「慈しみの瞑想について」、ドライトライン先生の英語での瞑想法の講義は特に興味深かったです。学習した内容をよく咀嚼して身につけた知識としてこれからの案内に役立て奥深く幅広いものをゲストに提供し、高野山の魅力を発信していけるよう努めたいです。



活動報告 #01 学園祭 学友会総本部委員会 学園祭運営局長 3回生 瀬戸口 樹

今年は学友会総務本部委員長との兼任という事もあり、学園祭のみに集中することができず当日の不備が目立ってしまいました。準備段階では目途が立たずに途方にくれた事もありましたが、当局役員や学生有志の協力のお陰で無事に終えることができました。この場を借り改めてこの場を借り御礼申し上げます。

当日は雨が降り来場者が少なく寂しい雰囲気でしたが、静岡のアイドルグループ「オレンチェ」さんのライブで学生は楽しむことが出来ました。個人的な話ですが私もCDを買いipodで聞いています。

黎明館で行うという試験的な学園祭でしたが当日の天気が結果としては吉に出たと思います。

2日目は企画が多く私も司会をしたり、あいさつ回りを行ったりと忙しい日でした。私は動き回る方が好きなので充実した二日間を過ごすことが出来ました。

過去の資料を整理していると黎明館が出来る以前の学園祭の写真が出てきました。後輩たちには伝統ある曼荼羅祭を続けて欲しいと願っています。ご協力・ご協賛いただいた皆さま、誠にありがとうございました。



女装コンテスト

活動報告 #02 オープンキャンパス

平成26年度のオープンキャンパスは、7月26日(土)と11月1日(土)(学園祭と同時開催)の全2回実施しました。

今年度は、和歌山市や五條市などから無料送迎バスを運行し、昨年度より多くの方々にご参加いただきました。

学内ではオリエンテーション・進学相談・体験授業を、学外では奥の院ツアー・霊宝館ツアーを開催し、キャンパスの環境や雰囲気をたくさんの方々に感じていただきました。

皆さまのおかげをもちまして、無事に終了しましたことをご報告いたします。



高校生と在学生ナビゲーター



茶道部による茶話会



密教学科体験授業



人間学科体験授業

特集 道を歩む僧侶たち

ROAD_RUNNER File#005

高野山大学と私
発菩提心

Arai Sotoku



弘法大師空海の食事を毎日2回、御廟へ運ぶ「生身供」

高野山大学へ

私は正直、高野山大学には入学したくありませんでした。何故なら、都会の大学でのバイトやサークル活動といった大学生活に憧れていたからです。

けれども、それは最終進路を決める高校の三者面談の時でした。先生が母親に、「人間というのは「こころの基盤」をしっかり持っておかないといけません。今後、新井君が如何なる道を進もうと「こころの基盤」がしっかりしていれば、必ず如何なるところでも成功するでしょう。ですから、まず「こころの基盤」を学ばなくてはなりません。「こころの基盤」は全国で唯一、高野山大学でしか学べません。新井君を高野山大学に入れて下さい」

この言葉で、母親の心は決まり、私もこの先生のお言葉に動かされ、高野山大学に進路を決定しました。

今振り返れば、この温かいお言葉と、高野山大学で「こころの基盤」を学ばせて頂いたからこそ、今ここに幸せな自分がいます。この道を進んでよかったと心底思います。

高野山大学の学び—人の生き方に触れることが人生の活路を開く—

高野山大学では学問はもちろんですが、それ以上に多くの人と出会い、その方の生き方を勉強させて頂きました。今回は、特に「こころの杖」となっている二人の先生をご紹介します。

まずは武内孝善先生です。それは、先生が最愛の奥様を亡くされた時のことです。先生は心労と研究からの疲労で足が不自由になっておられました。普通の人でしたら、休養をとって、心身ともに養われますが、先生はその時に、

「新井君、私を送り迎えしてくれないか」と、私に頼まれて、しばらくの間、車で毎日、大学とご自宅とを往復させて頂きました。

先生は土日、平日関係なく、一日たりとも研究を欠かすことはありませんでした。苦しい思いをしているにも関わらず、それに負けることなく精進されている先生の後ろ姿を忘れることはできません。今でも私の心の支えです。

もうお一人は、岩坪眞弘和上様です。当時、大学では「住職学」という科目が開講されており、和上様はこの授業を担当されていました。ちょうど、私が大学院に残るか、それともを他の道に進むか、悩んでいた時のことです。

しばらく授業を拝聴し、何十年という間、人びとを教化されてこられたこの方なら、私の悩みを解決して下さいのではないか、という思いに至り、授業が終わった後にお尋ねしました。

すると和上様は、「日本のお四国は浄土です。お遍路をして仏さまを念じれば、必ず靈光を頂ける。私も昔にお参りさせて頂き、仏さまのお導きを頂きました。貴方も一度、お四国遍路をされてはいかがかな」

と、というご助言を頂き、実際にお四国遍路をさせて頂きました。すると、その中で不思議なことやいろいろな出合いを頂き、道が開けて、今の総本山金剛峯寺、奥之院に奉職する機縁へとつながりました。

私は、このお二人のお姿とお言葉を通じて、「人の姿が心の支えとなり、先德のみ教を仰ぐことで人生の道が開ける」と、いうことを学ばせて頂きました。これこそが私の「こころの基盤」です。今でも、高野山大学で学ばせて頂いた「こころの基盤」を礎として、お大師さまのみ教を實踐し、奥之院に参拝される方々に接させて頂いています。このご縁を作って下さった高野山大学に心から感謝しています。



profile:
新井 宗徳(アライ ソウトク)
〈昭和61年生 長野県松本市〉
高野山大学 大学院修士課程修了
現在 宗教法人総本山金剛峯寺職員

「弘法大師の足跡を訪ねよう」(第2回)

平成26年10月18日(土)と19日(日)の両日、弘法大師の足跡を訪ねて、青年期の修行地である徳島県と高知県を訪れました。第一回の昨年は、大師の誕生地である香川県の善通寺をはじめ、出釈迦寺、満濃池等を訪れましたが、今回はその続きです。訪れたのは、徳島県の太龍寺、薬王寺、高知県の御厨人窟、最御崎寺、行当岬の不動岩、大日寺です。各寺院では、私たち高野山大学一行を温かく迎えていただき、普段は一般公開しておられない仏像や貴重な寺宝等を特別拝観させていただくなど、昨年に引き続き、大変貴く学びの多い参拝行となりました。とりわけ、薬王寺様、大日寺様には、深く感謝申し上げる次第でございます。

なお、今回も本学の卒業生が社長を務める、和歌山県の「日の丸観光バス(株)」にお世話になりました。最後まで安全運転に徹して下さった女性ドライバーの方に心から感謝致します。

○参拝地(徳島・高知県)

太龍寺(大師 求聞持修行の遺跡、四国八十八ヶ所 第二十一番札所)
薬王寺(四国八十八ヶ所 第二十三番札所)
最御崎寺(四国八十八ヶ所 第二十四番札所)
室戸岬 御厨人窟(大師 求聞持修行 明星来影の聖地)、一夜建立の岩屋
行当岬 不動岩、大日寺(四国八十八ヶ所 第二十八番札所)

以下は、参加学生の感想文(抜粋)です。

大学院 通信生 岡庭 和子

「晴天の中、青い海やきらきら光る海を左手に最御崎寺に向かう途中、大師が修行したという御厨人窟へ寄った。今は入れない修行の洞窟と住居とした洞窟に敬意をはらい、皆様と一緒に唱える般若心経にも力が入った。大日寺では、普段拝見できない大日如来を拝む事ができた。その神々しいお姿は、今でも目に焼きついており、旅一番の思い出となっている。個人では見せていただけない仏様や、説明をして下さり、高野山大学での現地学習会は意義のあるものであった。バスの中で声明も行っていただし、すばらしい息の合った勤行に聞きほれました。良い思い出となっております。団体旅行とは思えない程の、見学したい所は時間を取っていただき、満足のいくものでした。」

大学院 通信生 窪田 穂積

「弘法大師を学ぶ者として、求聞持行の足跡をたどることは悲願であっただけに、今回の現地学習会に参加できたことを大変ありがたく、意義ある内容であったと感謝しています。訪問先の札所や遺跡の前で、般若心経を誦誦し真言を唱えて参詣できたことも無上の喜びとなりました。さらに折に触れての先生方の説明を聞けたり、受け入れ寺院の厚意で秘仏や宝物の由来を学べたことも、高野山大学の企画でしか実現できない内容であると理解しています。今回参加の目的は、『三教指帰』序文にある「阿國大龍の嶽に躋り攀ち…」の風景を確認し、弘法大師の青年時代における求聞持法の修行形態に直接ふれることにあった。一通りその足跡をたどり、各行場の風景はカメラに収めて自分なりに満足していたが、日をおいてバス内で配布された『現地学習会資料』に目を通して驚いた。単なる史跡巡りで当初の目的を達していなかったことに気づいたのである。空海の修行のお供に、愛満・愛語の従者が御厨人窟で炊事の世話をを行い、その二人は後に愛慢・愛語菩薩と称され、高野山奥の院では毎日の御供の御厨人(料理番)として仕え、味見役をする嘗試地蔵として祀られているとの逸話を興味深く聞いたが、実はこの話から空海修行のイメージが一転してしまった。大師の求聞持行には、そ

れを支える強力なスタッフが存在したことになる。さらに修行の内容もかなり大規模なものであることが分かった。また求聞持法の修行エリアも谷底まで広がっており、室戸の行道と同じく一日の活動範囲は広域である。このことから、空海の求聞持行は、洞窟に籠り真言誦誦を行じただけではなく、広範囲に及ぶ荒行であり、『三教指帰』から推測できる命がけの修行であることが分かった。」

大学院 通信生 河野 浩

「今回の四国八十八ヶ所巡礼に参加した当初の理由は遍路学の履修にあたり、まずは、プレ体験をして自分自身の感性が如何に感じられるのかについて確かめたいというのが、目的でした。実際に体験させて頂くと、初体験のことが当然多く、惑う事ばかりで非常に緊張した心持ちで、初日は終了しましたが、二日目は、参加した方々とのお話しはずみ、和やかな雰囲気の中でスタートする事が出来ました。特に巡礼経験が豊富な方々の体験談がとても参考になりました。遍路学のテキスト、参考図書を事前に勉強して参加した次第ですが、やはり体験されている方々のお話が最も大事なことであったと痛感致しました。」

大学院 通信生 菟蒲 剛智

「今回、高野山大学の体験学習ということで、薬王寺にある様々な書や絵画を、解説付きで見せていただいたことは、忘れられません。大日寺で参らせていただいた、秘仏の大日如来さまの姿は、胸が高鳴るすばらしいものでした。中でも一番の感動は、室戸で一泊した翌日、朝一番に訪れた、御厨人窟です。その厳かな姿に頭を垂れ、洞窟の中で、般若心経、御真言、御宝号を唱え、ここが、お大師様が修行され、明けの明星の輝きを体感した場所なんだ…そう思い、入り口を振り返ると、青い海のきらめきと、真っ青に晴れた空の明るさが、目に飛び込んできました。ああ…生きている…突然、喜びが溢れてきました。」



一夜建立の岩屋



太龍寺



薬王寺

大学院 通信生 澤田 政江

「今迄の研修旅行には見られなかった様に思います。さすが大学の研修としました。四国の気質には湧き出る様な親切があります。見て見ぬ振りをして、或いは感ぜずして通り過している身近な出来事は日常に多々あります。感じる事の出来る感性を磨く事は行の道へと繋がっていくと思います。薬王寺様、大日寺様の御厚意に感謝致します。」

大学院 通信生 多田 眞実

「太龍寺。西の高野山と言われる。遍路が生死をかけての旅であったことを僅かながら体感いたしました。薬王寺。本坊内拝の機会を頂き、各間においていただいたご説明の中で、ご本尊、書、絵、荘厳に生きていることを学びました。最御崎寺までの道は、歩き遍路を体験。お大師さまの逸話が残る霊跡に触れることができました。お大師さまが唐から請来されたといわれている如意輪観音さま。境内では叩くと金属の音がし、その音はもうひとつの世界に通ずるといわれる不思議な鐘石を体験。行当岬。眼前に広がる美しい空と海に感動し、一心にお不動さまのご真言をお唱えいたしました。大日寺にては、秘仏であられる大日如来さまを特別拝観。今回の旅のテーマは行道。お大師さまが修行された地には岩場があり、危険な場所を廻るということが必ずついていました。乾先生が最初におっしゃられたように、実際に訪れて観る、感動という体験をすることによって自分の意見、考えていることなどが小さくなっていくように思いました。各所に二つの山を巡る行道あり、ひとつの岩を巡る行道あり、四国全体を巡ることも行道であることを教えて頂きました。」

大学院 通信生 松崎 緑

「高野山大学の強いネットワークの尽力により、一般の遍路者ではとても許されない秘宝、秘仏の拝観や心温まる寺院内でのお接待は大変貴重な体験となりました。四国遍路の第一歩がこの様な形で実現した喜びをかみしめながら、皆様とお唱えした般若心経は生涯の宝物として大切にしたいと思っ

ています。何より印象深かったのは、学部生諸氏による声明です。心を込めた朗唱の姿は、素敵でした。この旅行に参加しなければ出会えなかったご縁のすべてに感謝しています。高野山大学の皆様と共に大師ゆかりの四国の地にお参りさせて頂けた事は、今後の大学院の履修の励みとなりました。」

文学部 密教学科 三回生 一宮 浩真

「四国八十八ヶ所は巨大な修行の道場だ。太龍寺では、岩の周りを周回する行道を体験した。最御崎寺は登山道から登った。大日寺では、特別に秘像大日如来を見させていただくことができた。おそらくこの先一生お目にかかることはできないだろう。本当に貴重な経験だった。そして何より、この旅行で得た一番大きなものは、共に二日間を過ごした皆様との時間だ。様々な話も聞けたし、互いに意見を交わすこともできた。とても充実した二日間だった。」

文学部 密教学科 三回生 鈴木 透馬

「特に印象に残っているのは大日寺である。本堂の秘仏を見た時、今までに見た仏像とは全く違うオーラのようなものを感じた。自然と手を合わせ、背筋がピッと伸びるのを感じ、目力がとても強いなと思った。やはり秘仏とされるような仏像はなにか強いものが宿っているのだなと思った。この大日寺のほかにも室戸岬を見た時は、こんなに厳しい場所でお大師様は行をされたのだなととても感動した。非常に充実した研修となった。」

文学部 密教学科 三回生 丸山 泰雅

「僕は、去年に続いて参加させていただきました。まず最初に僕が参拝して思ったことは、太龍寺さんも最御崎寺さんも、険しい山の上にお寺があり、修行というものがどれだけ大変なものかということを知りました。それを身を持って体験したのが、最御崎寺さんへの歩き遍路道を歩いた時です。自分で山道を歩いて昔の人たちの大変さ、苦勞がわかったのが、この旅のいい体験でした。」

高野山大学別科スピリチュアルケアコース 公開講座を開催しました!!

本年度4月より、高野山大学大阪サテライトキャンパスにおいて別科スピリチュアルケアコースが開講されました。受講生の多くの方がすでに日々の臨床現場でご活躍され、臨床の知恵をお持ちであるため、講師である私も日々、新たな視点を学ばさせていただいております。

スピリチュアルケアコースの開講に伴い、一般の方にもスピリチュアルケアについて広く知っていただくために、「生老病死のスピリチュアルケア」をテーマとして、9月23日(火)に別科スピリチュアルケアコース公開講座「看取りからグリーフケアへー儀礼の視点からー」を開催しました。柏木哲夫先生と井上治代先生を講師にお招きし、約120名の方にお越しいただきました。

柏木哲夫先生には終末期医療現場におけるご遺族のケアの在り方についてお話いただきました。人は死後、時間が経つにつれ、お顔の表情が表現しがたい「やさしい感じ」になります。ご遺族の方はその「看取りの時間」を十分に体験することで、よき悲しみとしての悲嘆を体験されるのではないかとのお話でした。また、井上治代先生には、社会学的視点から、葬送儀礼と墓の現代社会における問題についてお話いただきました。世代継承を前提にしない核家族化が進んだ現代社会では、死後の私を祀る“いのち”の連続性を保証する文化が失われつつあり、この死後の私の在り方の変化がお墓を巡る問題として表れています。特に、現在、注目されている墓友という言葉には、人々の死後も関係性を求め続けるスピリチュアルな願いが含まれているとお話でした。

両先生のお話から、死という現象は個人だけのものではなく、家族や社会と関わる関係性の問題であることを改めて意識しました。スピリチュアルケアを自他の“いのちの営み”に関心をもち、支えることであると捉えるならば、個人の“いのち”の終焉の在り方だけでなく、遺される方の“いのち”にも配慮する視点は欠かせません。多様な価値観が認められる現代社会において、それぞれの“いのち”がよりよい形で生を全うすることができるような社会を構築することが求められており、これは本学のスピリチュアルケアコースが取り組む一つの課題でもあります。今後も受講生の皆さんとその課題に向き合っていきたいと思います。

大阪サテライトキャンパス別科スピリチュアルケアコース主任
森崎 雅好(助教)



密教文化研究所では、“東日本大震災復興支援活動から学ぶ連続講座”を開催しました。

第4回 7月23日(午後1時30分～4時 高野山大学本館2階第2会議室)
演題「3.11のPTG(心的外傷後の成長)におけるスピリチュアルな成長」

講師:尾崎真奈美(相模女子大学 人間心理学科 准教授)

震災後、苦しみを抱えつつも、精神的に深く美しく成長してきた人々の存在。「心的外傷後の成長(PTG)」という概念に基づいて人間の輝かしい可能性に触れると共に、ポジティブ心理学の立場から、仏教的世界観と西洋的世界観の統合についてご講演いただきました。



第5回 9月24日(午後1時30分～4時 高野山大学本館2階第2会議室)
演題「虐待を生き延びるということ」

講師:白川美也子(こころとからだ 光の花クリニック 院長)

東日本大震災は、災害以前の子ども虐待やDVをも露呈し、今なお深刻な影響を与えている。精神科医・臨床心理士として災害支援の現場で体験したことや、虐待を生き延びた人々の声を通して、困難な時代を生き抜く智慧を授けていただきました。



第6回 10月22日(午後1時30分～4時 高野山大学本館2階第2会議室)
演題「看取りの現場から見えてきたこと・密教・仏教を社会で生かすために」

講師:大井玄(東京大学 名誉教授)

看取りの現場では、終末期に近い人が、亡くなった近親者を視る「お迎え現象」が起こることがある。目に見えぬ「なにか」を我々はどう考えていくのか。講師は、仏教を「科学的宇宙的理解と両立する唯一の宗教」と位置づけ、看取りの医師としての立場から、仏教への期待を語っていただきました。



第7回 11月26日(午後1時30分～4時 高野山大学本館2階第2会議室)
演題「東日本大震災と臨床宗教師」

講師:鈴木岩弓(東北大学大学院教授)

宗教や宗派を超えて、宗教的ケアができる高度専門職業人としての「臨床宗教師」。震災後、東北大学大学院には「臨床宗教師」の養成を目指す講座が誕生し、修了生は、全国の病院や介護施設のグリーフケアやターミナルケアの現場で活動をはじめている。「臨床宗教師」誕生の経緯とともに、超高齢・多死社会へ向けた今後のあり方についてお話いただきました。



講師派遣制度をご利用ください

各機関(本山・宗団・同窓会・宗務支所・高野山真言宗寺院など)さまへの本学教員の講師派遣は、大学公務として取り扱っております。

【講師派遣お申込み手順】

- ご希望の講師名、日時、場所、講演テーマを、本学総務課へご連絡ください。
・お電話 0736-56-2921
・F A X 0736-56-2746
・H P <http://www.koyasan-u.ac.jp/info/dispatch>
- 講師との調整がとれ次第、依頼主さまへ折り返しご連絡いたします。
- 「講師派遣依頼書」を提出してください。HP掲載の様式をお使いください。

【注意事項】

- 講演料(手取り額)
60分 ￥20,000 90分 ￥30,000
※講演料のみを講師に直接手渡してください。
- 交通費・宿泊費は、本学にて負担します。(「高野山大学旅費規程」による)
- 講演が複数日あるいは長時間にわたる場合の条件は、講師と直接調整してください。
- 大学を経由せずに、直接講師へ依頼する場合は、この申し合わせの対象外とします。

寄付金のお願い

高野山大学では、同窓生をはじめ、皆様からの寄付金を募集しております。

これは、現在取り組んでいる、高野山霊宝館との連携や学習・就職支援室の運営などをはじめ、大学での教育・研究活動の充実と質の向上を目的とした寄付金の募集でございます。

頂戴いたしました寄付金は、
○大学の設備・備品費などの諸経費
○地域との連携事業の経費
○学習・就職支援室の活動費
などに用いさせていただく予定であります。

高野山大学では、学生や社会に選ばれる大学を目指し、“魅力ある学校づくり”をキーワードに、これからも様々な教育改革に取り組んでまいります。皆様におかれましては、高野山大学への引き続きのご支援を心よりお願い申し上げます。

この趣旨にご賛同いただける方は、お手数をお掛けいたしますが、高野山大学総務課(電話0736-56-2921、FAX0736-56-2746)までご連絡ください。ご連絡をいただきました方には、大学から、

○寄付申込書
○寄付金用振替用紙
○返信用封筒
をお送りさせていただきます。なお、寄付金は、一口二千元以上とさせていただきます。皆様のご支援とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

【ご注意】今回の学報に同封しております振替用紙は、同窓会費の振替にのみご利用ください。

高野山大学フジキン小川修平
記念講座講演会を開催しました!!



京都山大学アグニオンの神戸予立講座 講演会

宗教と科学の対話

11月29日(土) 18時～20時

会場：京大文学部講義室(京大文庫ビル6階)

講師：高橋 洋子(京都大学文学部教授)

司会：佐々木 隆夫(京都大学文学部教授)

入場料：無料

申し込み・問い合わせ先：アグニオン事務局
〒606-8501 京都府京都市左区下鴨 京都大学文学部
TEL: 075-753-4111 FAX: 075-753-4112 E-mail: agnion@kugra.kyoto-u.ac.jp

主催：アグニオン、後援：京大文学部、京大文庫ビル

宇宙の秩序への問い

終講義

この度、武内孝善教授・藤田光寛教授がご定年を迎えられます。
高野山大学密教学科ではこれを記念して、武内・藤田両先生の最終講義ならびに祝賀会を
下記の通り開催いたします。皆様のご出席を心よりお待ちしております。

高野山大学密教学科

記

高野山大学密教学科

記

以上

【伝統教学復興プロジェクト】
『大日経』講伝

平成二十八年度の夏季集団加行を、高野山大学大菩提院(加行道場)に於いて行いました。高野山総持院上綱宮田永明師に伝授阿闍梨をお勤め頂き、前期(理趣経加行・金剛界正行)行者は八月四日(月)から九月二十三日(火)まで、後期(胎藏界加行・護摩正行)行者は、八月十日(日)から九月二十三日(火)までの約五十日間、白雲寮(僧房)に住して瑜珈行に専念しました。

・前期行者 十二名
（大学院生一名、四回生二名、三回生二名、二回生一名、別科生三名、卒業生二名、一般一名）
・後期行者 六名
（大学院生一名、四回生一名、三回生一名、二回生一名、通信生一名、一般一名）
尼僧は、寶壽院（尼僧道場）に於いて行いました。高野山寶壽院門主中西啓實師に伝授阿闍梨をお勤め頂き、同期間、同院に住して、瑜伽行に専念しました。

・前期行者 一名
(大学院生)
・後期行者 二名
(四回生一名、通信生一名)

て、平成二十六年年度の「高野山大学教職員並びに先聖先哲追悼法会」を理趣三昧法会にて厳修しました。本法会には、本学に關係された全ての教職員並びに先聖先哲の尊靈の追善仏果菩提を祈り、供養する法要です。例年、本学の開校記念（五月一日）行事として、秋の学祭期間に振り替へて行っております。

今年も例年通り、導師を藤田光寛学長
にお願ひし、また職衆には春季・夏季の集
団加行を終えた学生諸君に勤めていた
だき、本学教職員等も参加して、厳かな

なお角塔婆は書道部の学生が書き、法会后に教職員の手で奥之院の高野山大学墓所に建立しました。

最後に、学生の仕仕者の名前を列記したい。川梁、折野哉（修士・回生）、今雪心雅、大津堯空、折野孝亮、笹山泰良、佐竹弘應、高木秀光（以上、学部四回生）、宮浩真、重藤隆高、鈴木崇公（以上、同一回生）、松岡弘純、吉本竜世（以上、別科一回生）、越智大和（科目等履修生の十三名です）。

平成二十六年十一月三日(月) 高野山寶
壽院に於いて、伝法灌頂を主として大阿闍梨に
高野山寶壽院中西啓賢門生を大阿闍梨に
お迎えし、高野山大菩提院で加行成満
した学生等が入壇し、阿闍梨位を得まし
入壇者は、十四名(大学院生一名、四回生
四名内、尼僧一名、三回生一名、通信生
四名内、尼僧二名、卒業生二名)内、尼僧
一名、科目等履修生一名でした。

平成二十六年十二月八日(月)九日(日)の二日間、高野山大学松下講堂黎明館に於いて、総本山金剛峯寺第二世住持松長良有慶居士(高野山大学名誉教授、大阿闍梨)にお迎えし、六月の第五会に引き続き、第六会を開延しました。宗団内外の僧侶約五十名が受講しました。

平成二十六年十二月八日(月)九日(日)の二日間、高野山大学松下講堂黎明館に於いて、総本山金剛峯寺第二世住持松長良有慶居士(高野山大学名誉教授、大阿闍梨)にお迎えし、六月の第五会に引き続き、第六会を開延しました。宗団内外の僧侶約五十名が受講しました。

平成二十六年六月二日(月)／平成二十六年十一月十四日(金)まで、高野山大学黎明館ナイトレクチャー『を六十年にわたり開催しました。大学の松下講堂黎明館のホールにおいて週一／三回、午後七時三十分から午後九時までの講演会を開催いたしました。講師には、高野山大学教員はもちろんのこと、高野山内外の講師をお迎えし実施しました。お寺の宿泊者、高野町民の皆さま、学生など、二十名／四十名程度ご参加いただき、大変好評に実施できましたことをご報告いたします。

平成二十六年六月二日(月)・平成二十六年十一月十四日(金)まで、高野山大学黎明館ナイトレクチャー『を六十年にわたり開催しました。大学の松下講堂黎明館のホールにおいて週一・三回、午後七時三十分から午後九時までの講演会を開催いたしました。講師には、高野山大学教員はもちろんのこと、高野山内外の講師をお迎えし実施しました。お寺の宿泊者、高野町民の皆さま、学生など、二十名・四十名程度ご参加いただき、大変好評に実施できましたことをご報告いたします。

[illegible]

平成二十六年度の春季集団加行を
来る、平成二十七年二月六日(金)～三月
二十八日(土)に行います。

〔申込開始〕

平成二十六年十二月十九日(金)

〔申込々切〕

平成二十七年二月二十日(火)

日録
(7月～12月)

平成27年度同窓会総会のご案内

日 時

場 所

平成27年5月28日(木) インターコンチネンタルホテル大阪

『総 会』午前11時30分～

大阪市北区大深町3-60

『懇親会』午後1時～

(グランフロント大阪北館タワーC) 梅田駅より徒歩5分

(会費7千円)

Tel.06-6374-5700

来る平成27年、高野山は開創千二百年の記念すべき年を迎えます。
目下大学は大変厳しい状況にあります、この難局を乗り越えるべく
同窓会と大学が一丸となって取り組んで参りたい所存です。奮って総会
にご参集いただき、闊達な議論を頂戴できればありがたく存じます。

また懇親会では、趣向を凝らした催しも企画しておりますので、ど
うぞご期待くださいませ。詳しい内容につきましては、追ってHPでお
知らせします。

同窓会皆様のご参加を重ねてお願い申し上げます。

尚、100名限定(先着順)とさせて頂きたく存じますので、同封の葉書に
て**ご出席の場合のみ4月30日(木)まで**にご返信くださいますようお願い
申し上げます。

一お問い合わせ一

高野山大学同窓会 Tel.0736-56-2921(内線112)

大学HP <http://www.koyasan-u.ac.jp>



写真提供:インターコンチネンタルホテル大阪

みるく会

平成26年5月22日(木)～24日(土)
に昭和36年卒業の「みるく会」を長
崎県で開催しました。

当日は、北は北海道から横浜・岡
山等、卒業後顔合わせの人も居ら
れ、和気藹々と異国情緒溢れる肥前
長崎で、彼の勝海舟、坂本龍馬が遊
んだ旧三大花街とつたわれる長崎
丸山の料亭「青柳」にて会食。夜は三
大夜景と云われる稲佐山に登って夜
景を楽しむ長崎に一宿。

翌日は原爆遺構や長崎教会群を
訪ね、同様に市内遊覧。
次回は森本氏主宰で兵庫・城崎温
泉にて5月20日頃を目標に開催する
ことを約して閉会しました。

(幹事 山田祐善 記)



みるく会

愛媛支部総会

平成26年5月27日(火)午後2時
より、松山市道後・ホテル古湧園に
おいて第4回同窓会愛媛支部総
会を開催しました。本部より来賓
の内海照隆高野山大学同窓会長、
藤田光寛高野山大学長、和田友伸
高野山学園法人本部事務局長、飛
鷹全法同窓会事務長の先生方をお

引き続き懇親会となり、同窓会員
の健康と高野山大学の発展を祈念
し盛会のうちに散会いたしました。
(事務局 正影光悠 記)



愛媛支部総会

旧制高野山大学設立(図書館)時代～

高野山大学史#004

本学図書館課長心得 木下 浩良

1926年旧制高野山大学
図書館



前号で、本学が大正2年(1913)に古義真言宗各派連合
会議において、真言宗京都大学(現在の種智院大学)への
合併が決議されて一時その存在を無くしながらも、学生運
動を中心とした存続活動により、本学の継続が成ったことを
述べた。しかしながら、その後の大正時代の本学は絶えず真言
宗京都大学との合併問題で存続か否かの攻防を繰り返して
いた。要するに、大学を何処に設けるか、真言宗古義派中の
政争の火種となっていた。京都側は画一派と称され、真言宗
の最高学府である大学を京都の一大学とすべきとの立場で、
大学経営上から最大派閥ともいべき高野派との合同を主張
し、他方の本学当局は、大学の存続に一步も譲らなかった。

ただ、当時の本学学生の中には大学を高野山から下ろし
て新たな大学の設置を望む運動や、京都側と合同して新設
大学を大阪の天下茶屋に設けることを訴える運動が出るな
ど、混沌とした様相を呈していた。それら学生運動の根幹に
あるのが、本学と京都のいずれも専門学校のままで、高野山
中学卒業生は東京の大学へと進学する現実の打破だった。

その状況下の大正13年(1924)、高野派教学部長の和田
性海師は真言宗の宗団から独立した大学令に基づく高野山
大学設置に奔走していた。宗立大学のため、事あるごとに問
題が噴出するという根本原因を絶つための、和田師の決意
であった。ちょうど、この時に高野派と同調する仁和寺・大
覚寺の2派があり、和田師はこの2派と合同をして、高野・仁
和寺・大覚寺の3派から成る「古義真言宗」構想を立てて、本
学の大学昇格問題とも合わせた問題解決を図った。その一
方で、本学に先んじて他宗の龍谷・大谷の両学が大学に昇格
したことも、和田師の危機感を募らせていた。

その結果、大正15年(1926)4月2日、本学は大学に昇格
した。全国では37番目にできた大学で、関西では同志社・龍
谷・大谷・立命館・関西大学に次いで6番目にできた私立大学
であった。当時は、帝国大学5大学、官公立大学10大学、私
立大学21大学の都合36大学の時代である。真言宗京都大

学は戦後に至るまで専門学校のままで、大正大学が大学と
なるのは、本学が大学に昇格した3日後の4月5日であった。

ただ、本学大学昇格には、施設・資金の両面でかなり無理
があった。大学の敷地をはじめ校舎等の建物は、古義大学林
時代のままで、文部省の視察官が本学へ来訪した時は、南
都銀行から一時的に札束を借用し積み上げて、視察が終
わったら早々に返金する様だった。これでは大学の充実はお
ぼつかないと立ち上がったのが、本学学生であった。本学と
本山当局へ大学の早期の充実を訴えたのであった。本山側
は料理屋で賑わう「上の段」を町ごと町内の鶯谷へ移転させ
大学の敷地とし、昭和2年(1927)図書館建築のための基礎
工事が始まった。しかし、校舎の建設は着手されなかった。

これに業を煮やした本学学生はついに同盟休校をして、
□々に「大門へ行け」と唱え、大門で学生大会を開いて、大学を
即時に高野山から山下へ移転させる決議した。これには本学・
本山当局も驚き、早期の大学の充実を学生に約束をして、今
後は移転問題を止めるように厳命した。結果的には、この学
生運動が動機となり、大学の整備計画が速やかに実行され
た。ちなみに、これらの学生運動の影で学生側と本学・本山
当局との仲介役を果たしたのが本学同窓会であった。図書
館については、同窓会は建築のための募金活動を始め、数
か月のうちに17万円もの寄附金が集まったとされている。

掲載の写真は完成直後の図書館である。設計は「関西近
代建築の父」と称された京都帝大建築学教室教授の武田五
一博士。施工は、清水組京都支店。高野山で初めて建設され
た西洋建築物であった。図書館の開館式は昭和4年(1929)
5月16日。その前夜は本学学生による提灯行列や演劇会が
行われ、開館式当日は花火があげられて高野山全山が図書
館の開館を祝福した。本学学生の純粋な思いと、本学・本山
当局の勇氣ある決断と、同窓会の物心両面の支援があっ
てできた、東洋一と称された図書館の完成であった。

迎えして23名が出席しました。
御法案をあげた後、武内正和愛媛支部会長の挨拶、事業・会計報告、次期役員改選、その他について話し合いました。本部来賓の先生方よりご挨拶頂き、高野山大学の現状についてお話を頂きました。

引き続き、同ホテルにて高野山大学教授・武内孝善先生を講師として「弘法大師の高野山開創」と題して記念講演を行いました。
その後、懇親会にて同窓生の親睦を深め会を終えました。

(事務局 鳥越千右 記)

高野山大学同窓三一会 物語者追悼法要と同窓会

三一会(昭和31年度入学)は、回を重ね13回となります。今年は同級物故者の追悼法要を計画しました。昭和35年の卒業時は50数名でしたが、50数年の歳月が流れ同窓会事務局はじめ皆さんの協力による調査の結果、13名の



方々が逝去されていました。
平成26年6月2日(月)午後2時30分より、高野山奥之院燈籠室に於いて、三一会物故者追悼法要、平座理趣三昧、導師米田弘明師(北海道)・職衆11師・遺族と寺族20余名参列のもと奉修いたしました。
会食は普賢院に於いて、御法案と13の盃に酒を満し、献盃を行い冥福を祈りました。
高野山大学同窓会よりの祝電とご祝儀を披露し、ご挨拶や欠席者のメッセージなどを報告、会は程よく般若湯も進み楽しく夜も更けました。
3日(火)は熊野本宮、静八丁、那智の滝を巡り、串本ロイヤルホテルで二泊、宴会では壺坂靈験記の隠し芸、最後は全員で青い山脈の大合唱で盛り上がりました。
4日(水)は橋杭岩、白浜を観光、午後4時大阪難波にて解散、深く心に残る同窓会でした。来年は中国地方での再会を約し散会しました。
出席者(順不同、敬称略)
青木義孝、伊勢木俊真、亀山修幸、桐井龍幸、滋澤弘広、杉山浩義、福島誠浄、松井隆明、吉田憲弘、米田弘明、仲村成道(以上夫人同伴)横山隆弘
〈遺族〉大河俊子、久磨真理子、徳谷千鶴、徳合好美
(幹事 仲村成道 記)

三三一会

高野山大学新制二回生・三回生を中心とする同窓三三の会では、6月4日・5日の両日、京都新都ホテルで今年度の例会を開催し、20名が参加した。

良い戦国武将の石塔は夫婦が並んで祭られている事が多い等々、エピソードを含めてとても興味のあるお話でした。今回の一般参加者は過去最大の数で、資料が足りず後日送付させていただいた次第です。

午後4時から和歌山支部総会が開催され、全ての議案が承認されました。

午後6時から懇親会を行い、夜が更けるまで昔話や今後の大学に寄せる思いが語られ友好の輪が広まりました。

(事務局 伊南陽弘 記)

四三一会

高野山大学昭和43年入学生で組織する四三一会では、平成24年同窓会を、去る7月10日、北海道札幌市において開催。当日宿泊先の札幌プリンスホテルに30名(内奥様4名)が集合。本年度は北海道在住の岩田慈照(中富良野町)、平岡恭博(清水町御影)、宮下栄隆(広尾町)が幹事を



担当。プリンスホテルパミール館へ移動後、午後6時より宮下師の司会で開会。

はじめに、今までに遷化された8名の方々と並びに東日本大震災犠牲者の菩提を祈り黙祷。その後、竹内崇雄会長の挨拶に続き地元を代表して岩田慈照師が挨拶。遠く九州から参加の岡部観栄師の発声で乾杯、その後懇親会に移り一年ぶり再会で近況報告等に花が咲き、二次会に移り夜遅くまで盛況であった。

今回は当初36名の参加予定であったが、50年ぶりの強い台風で4組6名の方が参加できず残念であります。参加の方々も台風の影響で発着の空港を変更したり、飛行機の便を変えたり、帰りの便の心配をしたりとご苦労があったようです。

来年は竹内会長と高野山在住者が幹事となり、京阪神方面で開催の予定。

出席者(順不同、敬称略)
荒木本恵、岩田慈照、内田大観、大田光俊、岡崎正信夫妻、岡部観栄夫妻、小川良明、笠井法真、笠谷教正、金子弘信、川村光雅、口羽秀典夫妻、新家利定、仙波諦仁、竹内崇雄、玉井勝順、中村紀志夫、西陰孝尚夫妻、西本有法、白馬義文、平岡恭博、細合有勝、本多清法、宮下栄隆、吉井良弘、渡辺真恵
(事務局 平岡恭博 記)

九州支部総会

去る9月9日(火)午後4時から、宮崎市・宮崎観光ホテルに於いて九州支部総会を開催し、23名が出席しました。



記念写真の撮影後、杉井永明師の開会の辞で始まり、同窓会本部よりのお祝いのメッセージが紹介された後、幹事長原敬峰師の歓迎の挨拶に続いて、山口耕榮師経頭のもと、この年の物故者4名(服部智典、西田嘉孝、樺木哲也、芳村超全)に対して同回の御法案を捧げ、亡き友を偲んだ。特に服部智典・芳村超全の一師は三三の会の常連で、参加者同その遷化を惜しんだ。

その後、廣安俊道師の発声で乾杯して、懇親会に移り、近況報告や学生時代の懐旧談に花を咲かせた。
宴たけなわの頃、上西孝道師の首頭で校歌・追遙歌を唱和、南山時代の若さを取りもどし、京洛の夜を楽しんだ。

翌日はマイクロバスにて嵐山を始め京都市内を観光、景勝地の「京大和」にて、舞妓さん踊りを観賞しながらの昼食後、来年の北海道での再会を約して、盛会裡に京都駅に



九州支部(鎮西会)総会を開催し、23名が出席しました。

同師の経頭により支部先輩物故者に御法案を捧げ、江頭弘勝支部会長より挨拶の後、長谷川慈弘師を議長に選出し議事に入りました。

議事要旨は次のとおりです。
一、平成25年度会計報告
・異議なく承認されました。
二、次回開催地および日程
・鹿児島県とし、地元及び事務局と相談して日程を決定することとなりました。

三、その他
・役員任期満了について、審議の結果留任で承認されました。
・議事終了後、藤吉圭一 副学長より大学の現況報告があり、質問や要望

て散会した。
出席者(順不同、敬称略)
河西密雄、平尾隆信、廣安俊道、三星光、長原敬峰(以上夫人同伴)・大多賀実忍、山口耕榮、杉井永明、今村寛玄、上西孝道、教海俊應、泉龍雄、川西実仁、山本宣昭、長原美恵
(長原敬峰 記)

広島県同窓会

平成26年6月24日(火)、福山ニューキャスルホテルにおいて、第31回高野山大学広島県同窓会を、福山地区担当にて開催いたしましたところ、廣安会長・古賀副会長・高塩副会長はじめ、高野山大学より乾仁志副学長と飛鷹全法同窓会事務局長が出席くださり、総勢18名の方々にお集まりいただきました。

今年度は役員改選に当たり総会審議として諮りましたところ、現役員再任ということで承認されました。

続いて乾副学長と飛鷹同窓会事



など活発な質疑応答がなされました。続いて、飛鷹全法同窓会事務局長からも様々な取り組みの説明がなされ、今後同窓会との連携や支援要請があり、総会を閉会しました。

引き続き懇親会に移り、内海照隆同窓会長から祝辞を賜り、鐘ヶ江尊明同窓会副会長の乾杯の発声で開宴し親睦を深め、次回の再会を約して盛会裡に散会となりました。

(事務局 高瀬寛照 記)

高野山大学昭和38年 入学生同期会

去る平成26年10月23日(木)〜24日(金)、「大阪帝国ホテル」で高野山大学昭和38年入学生同期会を開催しました。

この会は毎年開催しており、昨年は姫路・今年は大阪でと云うことで大阪唯一の川船「ひまわり」を貸し切り午後6時45分に乗船しまし



務長から高野山大学の現状報告や取り組みなど説明がなされました。引き続き懇親会に移り歓談、互いに在学当時の思い出や近況の報告、高野山大学への想いなど語りあい、最後に廣安地区幹事の音頭で校歌を合唱し、盛会のうちに今年度の同窓会を終えました。

(事務局 竹原善生 記)

和歌山支部総会

高野山大学同窓会和歌山支部では、平成26年6月28日(土)に平成26年度和歌山支部総会を和歌山市手平の県民交流プラザ和歌山ビッグ愛1201号室に於いて開催致しました。

午後2時から4時まで高野山大学図書館にお勤めの木下浩良先生に「高野山奥之院に見る戦国武将の石塔」と題しご講演を賜りました。

先生のお話は、奥之院に見られる150基あまりの戦国武将の石塔を一つ一つ紹介され、戦国武将と高野山(お大師様)との繋がりが、夫婦仲が



た。

食事を前に校歌斉唱・先亡諸師の追弔(心経・諸真言)、又今回は加藤義昭師の密教教化賞受賞の祝賀会と、今村純訓師の口立別院への移住への祝辞・激励会を同時に行い、一同を代表して田中真瑞信貴山前管長の乾杯の発声で開会し、和やかに語り合いました。

引き続き二次会へと場所を移し時を忘れて飲み、旧交を温めて楽しい一時を過ごしました。

翌日は、「華道高野山大阪大会」を見学し、次回の再会を約して散会しました。

出席者(順不同、敬称略)
今村純訓、江頭弘勝、岡崎寛雲、越智淳仁、鬼本文夫、加藤義昭、鐘ヶ江尊明、金原祥文、小松原雅康、佐伯増恒、塩谷光隆、鈴木賢浄、多門誓信、藤村隆淳、二上寛弘、桐村明昇夫妻、田中真瑞夫妻、中島真隆夫妻、松田俊教夫妻、川瀬良禅夫妻
(幹事 川瀬良禅 記)

北海道支部総会

平成26年10月28日(火)午後5時より、登別温泉グランドホテルに於いて第21回北海道支部総会が開催されました。

本学からは、川口道雄同窓会副会長・和田友伸法入本部事務局長・飛鷹全法同窓会事務局長が出席し、大学の現況報告をさせて頂きました。

総会終了後、懇親会へと移り和やかに歓談し盛会のうちに散会となりました。

(同窓会事務局 記)